

**「京都府公立高等学校の新しい入学者選抜制度」（案）に係る
意見募集の結果について**

1 意見募集の概要

- (1) 募集期間 令和6年12月26日（木）～令和7年1月31日（金）
- (2) 募集方法 京都府の各広域振興局、京都市役所、各区役所・支所等に用紙を配布、
ホームページにおける掲載
(新制度の対象となる府内公立中学校の1年生には各校を通じて用紙配布)
- (3) 応募方法 専用フォーム、郵送、FAX、メール

2 募集結果

意見数 336件（WEB（意見フォーム、メール）320件、左記以外（FAX、郵便）16件）

（年齢別）

年齢	応募者数（名）	
10歳代	11	3%
20歳代	3	1%
30歳代	43	13%
40歳代	163	48%
50歳代	80	24%
60歳代	16	5%
70歳代以上	1	1%
不明	19	5%
合計	336	100%

（属性別）

職業等	応募者数（名）	
保護者	249	74%
教育関係者	23	7%
生徒	10	3%
その他	54	16%
合計	336	100%

（居住地別）

居住地	応募者数（名）	
京都市内	205	61%
京都市外	94	28%
不明	37	11%
合計	336	100%

3 御意見の内訳

意見区分	意見数（件）
新制度全般	115
受検機会・日程	150
新たな前期選抜（仮称）	22
報告書や評価	83
出願手続き	13
新制度の導入時期	5
公立高校に求められる役割	11
その他	56
合計	455

※複数の「意見区分」に渡る御意見は重複して計上している

4 主な御意見（要旨）と御意見に対する考え方

別紙のとおり。

御意見の要旨	件数	御意見に対する考え方
【制度全般について】 ・ より分かりやすい制度になることを期待する。京都府・京都市が目指す教育環境日本一に向け、不断の見直しを望む。 ・ 今回の案に賛成。受検する側、選抜する側ともに負担が減ることは良いこと。また、複数校を志願できる仕組みは良い。 ・ 子どもたちの負担を減らすという、子どもの気持ちに寄り添った改革をいただき有難い。 ・ 不合格通知を受け取る受検生を減らすことは、新しい制度の大きな改善点と言える。 ・ 同じ学校の学科を2度受検することは負担であり、中期選抜を無くす案は賛成。中期選抜の受検者にとって、前期選抜合格者がいる中での登校は精神的負担に繋がっていた。 ・ セーフティーネットという考え方は、発達途上の中学生にとって必要な配慮。 ・ 家庭環境や経済状況に関わらず、公立高校を志願する生徒が入学できる制度となしてほしい。 ・ 前期選抜、後期選抜という名称からは一般募集と欠員補充という位置付けが読み取れない。 ・ 高校入試制度を廃止してほしい。 ・ 専門性の無い専門学科は普通科に改編し、あわせて総合選抜制度に戻すべき。	67	今回の新しい入学者選抜制度案は、現行制度の導入から10年以上が経過する中、中学生が主体的に自身の個性や能力に応じて高校を選択できるより良い制度となるよう、京都府・京都市教育委員会及び府内の公立中学校・高校代表者とともに、制度見直しについて検討・議論を進めてきたものです。 検討にあたっては、御意見にもありますように、同一校・同一学科を2度受検することによる受検生の負担軽減のほか、中学生の進路保障も十分に踏まえたより良い制度を構築する必要があると認識しており、現行制度のメリットである、多面的な評価尺度による選抜やセーフティネットの役割である複数校志願制度を維持・継承しつつ、より分かりやすい制度とすることが重要と考えております。 いただいた御意見も参考にしながら、引き続き、京都府・京都市協調のもとで、中学生にとってより良い制度となるよう検討を進めてまいります。
【選抜における検査内容について】 ・ 高校が求める力を端的に測ることのできる検査内容を望む。 ・ 現行の前期選抜の「A方式2型」や「B方式」のような部活動実績を重視した選抜方式について再検討されたい。 ・ 中学校での学習を反映できるよう、全ての選抜方式で学力検査を実施すべきである。 ・ 学力検査だけでなく創造力を図ったり特技を生かしたりできる検査があるとよい。 ・ 英語検定等の資格について加点制度があればよい。 ・ 生徒の習熟度に違いがあるため、難易度を分けて2種類の学力検査問題を作成してはどうか。 ・ 学校により多様な検査項目や配点を設定すると複雑である。共通枠の学力検査を活用する、独自検査の教科数に上限を設ける、面接や小論文のみとする等、検討すべきである。	26	
【複数校志願について】 ・ 独自枠と共通枠を両方志願することで、現行制度同様、志願校数を可能とする点は良い。 ・ 複数校が志願できる制度は分かりづらいため、他県のように志願は一校のみと、シンプルにすべきではないか。 ・ 複数の募集枠があり複雑さが解消されていないのでは。また、独自枠は専門学科のみ募集するほうが分かりやすいのではないか。	14	
【不登校等支援を要する生徒を対象とした選抜について】 ・ 不登校傾向の生徒を対象とした特別選抜について、実施校の増や全校で一定割合を募集する形式にするなど、取扱を拡充してほしい。 ・ 不登校等支援の必要な生徒が増加する中、自分のペースで学ぶフレックス校が高倍率となっており、特別入学者選抜の扱いに関心がある。	3	現行の特別入学者選抜は、前期選抜と志願資格が異なるものとして、海外勤務者帰国子女、中国帰国孤児子女、社会人、長期欠席者、全国部活動のほか、自分のペースで学びたい生徒や学び直しを希望する生徒を対象とした清明、清新、京都奏和などの一部高校で実施しております。 こうした中、新制度での特別入学者選抜の在り方については、御意見にありますように、不登校傾向の生徒をはじめとする様々な背景を持った生徒が増加している状況も踏まえ、多様な学習ニーズに対応する観点から検討を進めてまいります。
【後期選抜の実施方法について】 ・ 前期選抜は1校1学科の志願とし、欠員のあるすべての学校で後期選抜を実施してほしい。 ・ 後期選抜の募集にあたっては、「相当の欠員」という曖昧な表現ではなく、基準を決めてほしい。進路保障の観点から欠員があるすべての学校で実施してほしい。 ・ 後期選抜の学力検査は、前期選抜の学力検査結果の転用を可能とするなど、検査項目を絞るべきである。	5	現行の後期選抜については、通学区域毎の中学生数や前期選抜・中期選抜等の結果によって実施の有無を判断しており欠員のある全ての学校で実施することや基準を定めることはしていません。 また、中学校での学習の成果を一定を計るため、現行の後期選抜においても学力検査を実施しておりますが、国数英の3教科で50分と受検生の負担も考慮したものとしており、こうした考えは新しい制度でも引き継いでいきます。

2 受検機会・日程に関する御意見（150件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する考え方
【受検機会について】 - 現在の前期選抜と中期選抜を一本化することに賛成。一本化することで、追検査までの期間延長など、メリットは大きい。 - 一本化に伴い、体調不良の際に不利益が生じないか懸念がある。1週間程度の十分な期間を空け追検査を設定する等、受検機会の確保が必要。 - 一本化により受検期間を短縮化し、集中して短期間で乗り越えるほうが良い。 - 私立高校の入試と近い時期に公立の受検日が設定されることは中学生にとっても好ましい。 - 私学入試との日程が近接しており受検生にとって負担。 - 現行中期選抜のような、前期結果や私学の合格状況を踏まえ、受検先を選択する機会が喪失してしまうのはデメリット。	50	今回の新しい入学者選抜制度案では、現行の前期選抜と中期選抜を一本化し、統合後の新たな「前期選抜（仮称）」の中で、現行前期に相当する「独自枠」と、中期に相当する「共通枠」を設け、2月中下旬の連続する2日間で検査を実施することから、体調不良等で欠席した場合の受検機会の確保については、非常に重要な視点と認識しております。 このため、御意見にありますように、本検査当日に何らかの事情により欠席した場合でも、追検査までの期間を1週間程度設けるなど、受検生が安心して受検に臨めるような日程を検討しております。 また、私学の合否状況が公立の志願状況に影響する可能性も想定されることから、志願辞退の方法等についても今後検討を進めてまいります。 なお、中学生の進路選択・決定に向け、過度な負担とならないよう、私学入試日程も考慮した適切な日程を設定したいと考えております。
【日程について（合格発表）】 - 合格発表が早まり、中学校卒業式までに進路先が決まることは好ましい。子どもたちが安心して次の道へ進めると思う。 - 前期選抜、後期選抜ともに、卒業式までに進路が決定し高校入学の準備期間が十分確保できる日程を望む。 - 検査日から合格発表までの期間が長く受検生にとって負担であるため、合格発表の日程を前倒ししてほしい。 - 不合格者への配慮、中学校の授業時数確保の観点から、検査及び合格発表を3月に実施するほうが良い。 - 新制度では中学校の卒業式前に合格発表が実施されることから、合格発表後の中学校生活において、生徒のモチベーションを維持するための対策を検討すべきではないか。	45	検査日から合格発表までの期間が長いとの御意見につきましては、追検査までの日程の確保と複数校志願制度に伴う合否判定作業等に一定時間を要しますが、今後、判定作業の効率化等をはじめ、具体的な所要日数を検討する中で、短縮化についても検討を進めてまいります。 また、合格発表後の中学校生活の充実に係る御意見については、高校教育にとっても重要なため、教育活動の工夫など、これまで以上に中高間の連携強化が求められると認識しており、今後検討を進めてまいります。
【日程について（学力検査）】 - 学校独自検査と共通学力検査の日程が連続しているため、2日間で最大10教科の試験を課すとすれば受検生には負担。検査教科数に上限を設けるなど、負担軽減の観点から対策が必要ではないか。 2日連続の学力検査日程は負担が大きいため、これまで通り、前期選抜と中期選抜で日程を分けたほうが良い。 - 独自枠を第1志望とする生徒にとっては、1日目に学校独自検査、2日目に共通学力検査を実施するほうがよい。	55	多くの受検生にとって2日連続の検査となる可能性が高いことから、1日目の検査内容や検査項目の在り方も含め、検査科目数の上限を設定するなど、検討を進めるべきではないかとの御意見を踏まえ、生徒負担軽減の観点から、検査項目の在り方について今後検討を進めてまいります。

3 新たな前期選抜（仮称）に関する御意見（22件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する考え方
【志願可能な学校数について】 - 独自枠は1校1学科等、共通枠は最大3校3学科等志願可能であり、両方を志願することができる形式は、生徒の選択肢を広げる意図があると理解。 - 最大4校4学科を志願できることで現行制度より倍率の予想がしづらくなり、志願校に偏りが出る可能性がある。	9	今回の新しい入学者選抜制度案は、現行制度の良さを生かした制度改善の位置付けであり、志願可能な学校・学科についても、「独自枠」は現行前期選抜同様に1校1学科等、「共通枠」は現行中期選抜同様に最大3校3学科等とし、両方志願することで、最大4校4学科の志願を可能としており、現行制度と同数の志願校数を確保しております。
【募集割合について】 - 多様な学校から第1志望を選択するシステムが望ましいため、普通科の独自枠の募集割合は柔軟に設定すべきである。 - 独自枠100%の学校があるのであれば、共通枠100%の学校があっても良いのではないか。 - アドミッションポリシーの観点や生徒の個性や能力を重視する独自枠の募集割合を現行よりも高めてはどうか。特に、現行前期で70%募集としている職業学科は独自枠では100%募集にすべきである。 - 独自枠の募集割合が各学校で異なると分かりづらい。	13	今後、学科ごとの募集割合について検討を進めていきますが、各高校のアドミッションポリシーに則した生徒募集や中学生の個性や能力を重視する観点から検討すべきとの御意見も踏まえ、幅広い観点から検討を進めてまいります。

4 報告書や評価に関する御意見（83件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する考え方
【報告書の活用について】 ・ 中学校の内申をもっと考慮しても良いのではないか。コミュニケーション能力や意欲・態度は学力検査だけでは評価できない。 ・ 報告書について学校評価が反映されるのでメリットはあるが、実技教科の評定を2倍する取扱は疑問。検査実施5教科に重きを置く又は全教科を同じ割合にすべきである。 ・ 報告書の配点比率が大きい、小さくするなど検討できないか。 ・ 中学校3年間の学習の記録が評価対象となっており、受検の早期化や途中から伸びた生徒が挽回できないことが懸念される。3年生の評価のみとしてほしい。	77	中学校からの報告書は、生徒一人一人の能力や適性、意欲や活動経験を積極的に評価するために重要であると考えております。そのため、1回の学力検査のみで選抜を行うのではなく、中学校での3年間の様々な学習成果として、第3学年までの評定合計を用いる中で、現行の中期選抜では、実技教科について、学力検査を実施しないことから評定を2倍する取扱としており、「共通枠」においても同様の考え方としております。 一方、現行の前期選抜では、学校の求める生徒像に応じて各校で検査項目や配点を設定できることから、「独自枠」においても一定柔軟な配点を可能とすることを検討しております。 新しい入学者選抜制度案では、こうした考え方を基本とする一方で、報告書の取扱については、引き続き、学校現場の意見も聞きながら、検討してまいります。
【報告書を用いない選抜方法について】 ・ 不登校傾向の生徒が増加していることから、中学校の成績を考慮しない選抜を一部採用することも検討されたい。 ・ 他都市のように、報告書を考慮しない選抜方法を一部の学校だけでなく、全体に広げていくべき。	6	現在、清明、清新、京都奏和の特別入学者選抜や、長期欠席者特別入学者選抜において、報告書を用いない選抜を一部実施しておりますが、御意見にありますように、多様な評価の推進の観点等から、報告書を用いない選抜の在り方について、先述の特別入学者選抜の在り方とあわせて検討を進めてまいります。

5 出願手続きに関する御意見（13件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する考え方
・ 出願手続などの電子化を進めるとともに、押印の省略化を検討するなど、生徒・保護者や学校現場の負担軽減の観点から、手続面や入試業務の改善を図ってほしい。 ・ 願書の記入や提出に関する作業も、生徒と学校現場にとって大きな負担であることから、電子化を進めていただきたい。	13	入試手続の効率化・簡略化を図ることは、生徒・保護者の利便性の向上や働き方改革の推進、負担軽減の観点からも重要と認識しております。 御意見にある電子出願については、新制度案の実施予定時期である令和9年度入学者選抜での導入を目指してまいります。

6 新制度の導入時期に関する御意見（5件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する考え方
・ 新制度の概要が生徒、保護者や学校現場に浸透するまでに相応な時間を要するため、いつから実施するのか説明がほしい。	5	現在の中学1年生が対象となる令和9年度選抜であれば、周知・準備期間として十分な期間を設けることができ、実施時期としては適切と考えております。 引き続き、中学生や保護者、学校現場へ早期の周知を図るなど丁寧に対応してまいります。

7 公立高校に求められる役割に関する御意見（11件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する考え方
【公立高校の役割について】 ・ 入学者選抜制度だけでなく根本的な教育内容の改革をすべきである。 ・ 各学校が特色を明確に打ち出すことで、志願者が適切に分散し、生徒が自分に合った学校を選択しやすくなる。各校の特色を強化し、それを基にした広報活動やオープンスクールの拡充を望む。 ・ 不登校や発達障害など、多様な課題を抱える生徒が通うことのできる公立高校を各地域に設置いただきたい。 ・ すべての学校が定時制高校や通信制高校のような、一人一人に対して寄り添い、サポートする学校になれば良い。 ・ 部活動やボランティア活動で頑張るのも良いが学力も大切である。先生たちの授業する力が公立学校の魅力である。 ・ 私学に比べ施設が老朽化しているが、施設を改修するなど、もっと教育に予算を割いてほしい。 ・ 公立高校の廃校が相次ぐが、欠員のある学校についても学科やコースのカリキュラムの見直し、通級指導教室の設置等の工夫で安易に廃校にしないでほしい。	11	御意見にありますように、各高校の魅力化・特色化が一層求められる中で、教育環境の整備や教育改革を一体的に進めることにより、生徒一人一人の能力や個性を最大限に引き出すことのできる公立高校づくりに全力で取り組んでまいります。 また、生徒の学習ニーズの多様化や少子化の影響も踏まえ、望ましい学校規模や学校配置についても検討が必要と考えており、地域の実情等を踏まえた公立高校の在り方について設置者である京都府・京都市協調のもと、具体化を図ってまいります。 あわせて、様々な機会を通して、中学校現場や生徒・保護者に公立高校の魅力や教育活動を御理解いただけるよう、その周知に努めてまいります。

8 その他の御意見（56件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する考え方
【情報提供について】 ・ 中学生や保護者が新制度の内容を十分に理解し、安心して受検ができるよう、制度の詳細や独自枠の検査内容等について、早期に周知・説明いただきたい。 ・ 選抜制度の変更に合わせて学科改編がある場合は早期の情報提供を希望する。	11	教育委員会において、既に制度見直しの趣旨や新制度案のポイントを理解いただくための説明動画を作成・配信するなど、円滑な制度導入に向けた周知に努めているところですが、御意見にあるような、各校が検査項目を定める独自枠の内容等については、可能な限り早期にお示しする必要性が高いことから、令和7年6月頃を目途に公表する方向で検討しております。
【通学圏について】 ・ 地域によっては、志願可能な普通科高校の選択肢が少ないことから、現行の通学圏を拡大してほしい。 ・ 通学圏によって選べる高校（普通科）に差が生じるのは不公平である。 ・ 通学圏を撤廃し、他都市のように全圏一区にすべき。	23	普通科においては、地理的条件を勘案し通学圏を設定しつつも、これまでから中学生の学校選択の幅が広がるよう改善してきたところです。 今回の見直しでの変更は想定していませんが、いただいた御意見については今後の参考とさせていただきます。
【その他】 ・ 前例にとらわれない個々に合わせた合理的配慮の検討もお願いしたい。 ・ 食堂や売店の設置など昼食の体制整備を要望。 ・ 生徒の意見が一番大事。 ・ 現行の前期選抜より受検生が多くなることを見込まれ、当日の高校の運営が難しくなるのではないかなど	22	多様な御意見を参考にしながら、引き続き、より良い選抜制度となるよう検討を進めるとともに、高校教育の充実に努めてまいります。